

(資料1) 3年間の総括(2012年1月 職員会議)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ●「閉校示唆」に関わり、大使、理事長と赴任当初から H24 派遣教員減員対応を行う(定数維持、現採教員増員)。 ●学校が存続するためには、児童生徒数の増、そのためには誇れる高い教育の質であると考え、4月、経営方針3点を掲げる。 ●俣事務長高齢につき、仕事内容の引継と退職対応を考えることになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大使のご尽力で、教頭含め4名派遣される。 ●チームワーク構築と保護者・児童生徒との信頼関係醸成を第一とし、4月に家族を含め校長訓辞の形もとるが、失敗。 ●教頭の職務内容格上げを理事長に提案、組織図変更 ●俣事務長退職に伴い、事務会計執行、手続き見直し。年度会計を黒字にする。(教育へ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●チームワーク等前年度踏襲、年度当初に理事長へ「敗北宣言」と改善を約束 ●H21計画通り、友田先生を採用、研修期間。 ●2学期学芸会より、教師・児童生徒の一体感が出る。外部の信頼が高まった感触あり。 ●派遣教員増員ならず ●バス2台運行へ ●学校会計黒字見直し ●政府主催中南米校長会開催
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ●情報のオープンと共有、水平分業、「夢とロマンの教育」の3点で進めようとする。 ●ブラックボックス化している事務・会計仕事内容の聞き取りを行い、課題を把握。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教頭の校内、理事会における権限の付与 ●事務担当の設置と仕事内容の解明 ●一部方針と沿わない実践、協力体制・報連相の欠如、保護者から不信の事態が起きる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己申告書の内容を管理職は厳しく「運営改善」の内容にすると共に、教員は具体的方策と成果が見える形で記入(現採も) ●情報の共有と協力体制が改善された。
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ●中3欠学のため、主要教科単式授業 ●自粛気味だった校外活動が花開く。 ●途絶えていた修学旅行を実施 ●保護者と各教員の結びつきが強く、また高い指導性に支えられ、成果の見える活動が展開された。学力状況の報告ができた。 ●英語、西語の指導計画・評価改善の要認む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年編成、定員不足のため主要教科複式。教師は慣れぬ複式授業で苦慮する。 ●学力状況について、理事会、木曜会に報告できず。 ●行事や活動の目的、成果が意図的に明らかにされていない。 ●英語、西語の目的が課題視される。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会、学芸会、ガストロノミコ等評価を受けた。●2学期の児童の個別対応の要請に応えたが、課題含み。 ●宿研、英検実施 ●現地校交流、2年継続で成果 ●家庭学習も含めた学習訓練が話題に出る。 ●英語、西語グループを希望と能力で編成した。西語は好評、英語はもっと会話力を。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●教員夫人の学校財源への無理解発言に対し大使館、理事会より指導を求められる。 ●生徒より教師1名への批判あり。 ●「さくら会」騒動 ●かねてより授業態度の悪い英語教師交代 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員家族内の不協和音が外部にも伝わる。 ●校長へ直接3件ほど苦情が入る。 ●「セニョーラの会」を解散勧告 ●事務会計過去に関わるトラブル続出 ●現地職員朝会実施(教頭指揮) 	<ul style="list-style-type: none"> ●幼稚園、日本語学校併設、国際学校構想が浮上。 ●「セニョーラの会」復活?大人の交際を ●新年度さくら会、公務員役員復活 古い順

(資料2) 今後の課題 ((2012年1月 職員会議))

	項目	内容・見通し	対応
学校経営	1 後任校長	・新経営方針発表	・これに基づき、教頭は具体化策を提案する。 ・都度、子どもたちの成長が確認できるデータを提供
	2 H24 学校予算 (理事会メンバーではあるが)	・中南米校長会 (ブエノス)、修学旅行、現採教員の補助率ダウン、生徒数減による赤字見通し ・スクールバス2台体制 ・校舎営繕に関わる諸工事	・修学旅行の引率を無駄のない必要最小限に (3月まで)。理事会では、法人会員の募集 ・利用費の試算、決定 (利用者が激減すれば1台へも) ・国庫歩諸枠内で実施できる年次計画を立てる。
	3 弁護士。会計士 (理事会)	・まるで親身でない弁護士に対して不信感を持っている。会計士は (理事会また一税務署報告のデータ作成に別料金をとっている。(※両者、経費削減の意味もある。))	・学校弁護士を廃止し。その都度、担当理事の会社の弁護士に尋ねていただければすむ。・会計士はデータ作成込みで現在より低い契約金で雇用替え (両者で一千万ペソ削減)
	4 税金対策	・上がり続けた高額の税金が学校会計を圧迫している。	・やぶ蛇になる、減額できるはずの両論併記から先へ。
	5 学校の今後	・幼稚園、日本語学校併設、国際学校へ移行	・別文書で構想を理事長へ提出済み。
学校運営	1 教頭	・H25年度の交代で治安の改善を理由に教頭未配置の可能性	・教頭の仕事のマニュアル化と分担用意 (教頭)
	2 事務担当	・ブラックボックス化、お任せにならぬよう交代が必要	・現採の二人がよく知っている体制が望ましい (危機管理)。
	3 報連相徹底	・すべての動きが校長に伝わるように。	・「良きに計らえ」ではなく的確なリーダーシップが必要 ・特に事務・会計、国庫補助等は後任校長によく説明する。
	4 H25年度へ	・H25年度交代に備え、より簡潔な引き継ぎ資料を準備する・	・4月当初から引継を意識して整備 (注釈等一文ほしい)
教育活動	1 教材代替	・生活科、社会、理科単元で現地教材の代替えが明確でない。	・社会科副読本も含め、今後の整備・計画化が必要である。
	2 単式の複式化	・主要教科を単式にする。その際、習熟度に応じた指導を	・個に応じ具体的な方策を立て、成果をあげる (基礎基本)
	3 学習訓練	・H23年度、話題にあがっていたもの	・低、中、高、中学部の4つで家庭学習も含め作成するか。
	4 道徳	・学校評価でマイナス	・時数の確保と価値項目配列の工夫
	5 課外個別指導	・現在日本語も含め、小1年2名、小3年1名、小5年1名、中1年1名の個別指導を課外に実施するか。	・やるなら必要な児童生徒全員に行う。しかし、物理的に無理がありそう。さらに放課後遊びの時間がなくなるが。
その他	1 さくら会	・自由参加である。大使館は新年度ぬけるかも。	・学校は最低、管理職夫人は残る必要がある。校内仲良く。